
詩を書いてみた

只野飯陣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩を書いてみた

【Zコード】

Z8908Y

【作者名】

只野飯陣

【あらすじ】

たまに詩を投稿
自虐物ばかりです

クリスマス屋上（前書き）

昔、クリスマスに恋人に降られました

クリスマス屋上

スローライン スノーに

雪も積もりつまり動き出す物語り

ストーリー 素通り

気付かず傷付かず事など無いのに

結局僕は臆病だった

終局開く口とか屋上だった

本心隠して世間渡り

本格化して背蹴破り

本当は覚悟して言えたのに

癒えた傷ほじくり嘲笑い

痣洗い上げ揚げ足取られただ笑い

アゲイン陰らし部屋の隅での暮らし

クリスマスツリーに届かぬダイアリー

何時までたっても忘れられない 多勢な何時もの面子集まりフィー

バ

傷舐め合い築き上げ躊躇い

心にチクツと針の音

床トコトコ鳴らして歩く足跡 アートな季節にアツと氣付きや独り

日取りを確認予定も無い ナイーブな俺様綻びを再度

何時までたつても傷心の最後

クリスマス＝誕生日（前書き）

クリスマスと誕生日が近いと子供は毎年ガッカリします。

クリスマス＝誕生日

プレゼントを貰えず店頭に並びいつまでも続く喧騒
くだらない理由で喧嘩腰「くださらぬか」ってそれは俺も欲しい
何時までたつても祝われない

言われない言葉ハッピーバースデー

所詮はクリスマスより下

したがつてつまりは無視したの？

タカラの気配りに従事する両親
のらりくらりとかわすそれは関心
気付いたら俺も大人になって
冬の誕生日も平気になって
君の誕生日も蔑ろになって
寂しい気持ちひた隠し

暖かな空気に涙流し

いつしょくたになる誕生日
一生一緒のプレゼント
クタクタに疲れて直ぐ転倒
来年に期待エクステンション

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8908y/>

詩を書いてみた

2011年11月26日21時05分発行